の入学生を対象に教員免許状の取得要件として「教職実践演習」を新設し、大学は個々の学生の到達度を的確に把握することが必要となったのです。

教員の資質能力の保証は今や国際的な課題

近年、米国や英国、オーストラリア、ドイツ、韓国などでも、教員養成スタンダードによる資質能力の向上について議論されています。

一方、国内では数年前から各地の教育委員会が「教師塾」を開講し、新任教員の資質能力の向上が進められています。昨年10月には東京都教育委員会が独自のスタンダードを開発し、将来的に都の教員採用との連動を試みるなど、採用側からも到達基準の明確化に基づく資質能力の保証を求める動きが強まっています。

学生自らが目標を決める学びの体制を確立

兵教大では教員養成スタンダードの実施に当たり、学生自身がどのような質的側面を高めていく必要があるのかを把握でき、かつ常に高い目標と意識を持って学び続けられる学習支援システムと、組織的な指導体制を構築しました。特に次の3点を重視しています。

①本学の学士課程において養成される学生が備えるべき到達点を明確化する

②到達点に基づいて人材を確実に養成できるよう、教育課程の順次性・体系性の検証と実質化を行う

③到達点に基づき学生が確実に学習効果を挙げることができるための適切な評価と学習支援の体制を整備する

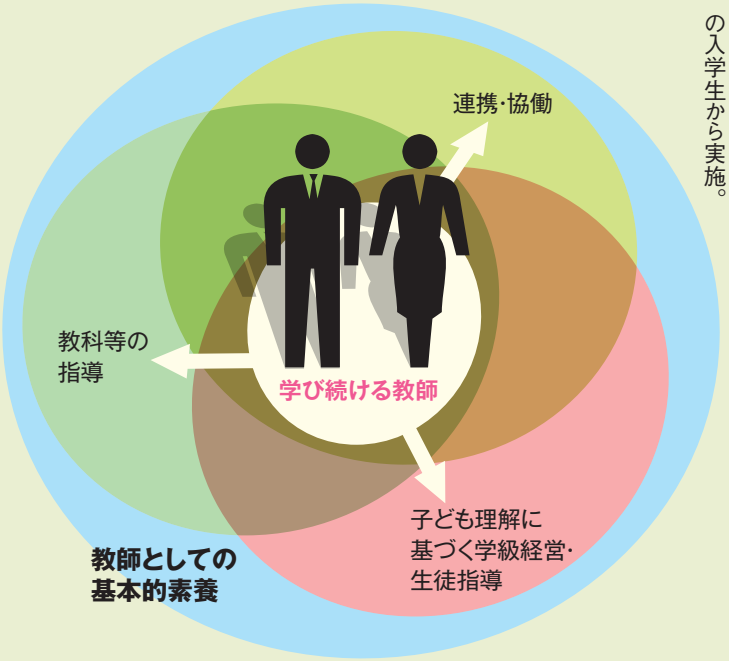
小学校版の教員養成スタンダードは「教師としての基本的素養」「子ども理解に基づく学級経営・生徒指導」「教科等の指導」など5領域50項目から成ります。4年間で各領域をバランス良く身に付け、知識基盤社会にふさわしい教員の養成をめざします。

【全国の小学校教員を対象とした第二次調査】

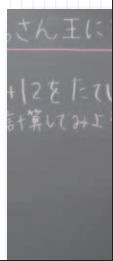
22（2010）年7月から9月にかけて全国の小学校教員に調査。899人から回答を得て、第一次調査で特定した50項目の資質能力の妥当性を確認した。

【教員養成スタンダードの完成】

5領域50項目（小学校版）から成る教員養成スタンダードが完成し、23（2011）年度の入学生から実施。



教員になるためには「教師としての基本的素養」を基盤として、「子ども理解に基づく学級経営・生徒指導」「教科等の指導」、同僚や保護者などとの「連携・協働」の相互に関連する3領域の資質能力をバランス良く身に付けることが大切である。このような資質能力は大学4年間を通して、また教職に就いてからも絶えず向上させることが求められる。つまり生涯にわたって「学び続ける教師」でなければならない。



「教員養成スタンダード」を策定し新任教員に必要な資質能力を育む

兵庫教育大学では養成すべき教師像を示した「教員養成スタンダード」（小学校版・幼稚園版）を策定。学部生が4年間で新任教員に必要な資質能力を身に付けられる仕組みづくりを進めています。

若手教員の資質能力がより求められる時代に

「知識基盤社会」と呼ばれる現在、新しい知識や情報は社会のあらゆる領域の活動基盤として重要性を増しています。また、グローバル化や情報化による国際競争の激化、少子高齢化により、学校教育の役割は一層高まっています。

しかし、今後10年間で教員全体の約3分の1が退職し、経験の浅い若手教員の割合が急速に増えることから、彼らの資質能力の向上が強く求められています。

兵庫教育大学では平成21（2009）年度の文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」（GP）の採択を受け、養成すべき小学校と幼稚園の教員像を「教員養成スタンダード（到達基準）」として具体的に示すとともに、その基準達成に向けて全学的に指導体制を整備してきました。

スタンダード策定の背景に「教職実践演習」の新設・必修化

兵教大が教員養成スタンダードを策定するきっかけの一つになったのが、18（2006）年の中央教育審議会の答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」です。この答申では、①大学での教員養成を通して「教員として最小限必要な資質能力」を確実に身に付けさせること、②教員免許状を教員として最小限必要な資質能力を確実に保証するものに改革していくことが求められました。

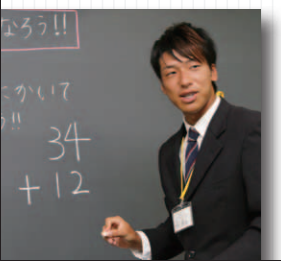
また、22（2010）年度以降

「教員養成スタンダード」ができるまで

【諸外国の事例調査】
平成21（2009）年から22（2010）年にかけて、兵教大教職員が英国、米国、オーストラリア、ドイツなどを訪問。各国の教員養成スタンダードとそれに基づく教員養成の質保証体制について調査した。

【国内大学の取り組み調査】
海外調査と並行して、北海道教育大学や島根大学など国内13大学の先行事例や教育・指導体制について調査した。

【指導主事等に質問紙調査（第一次調査）】
22（2010）年1月から2月にかけて、兵庫県教育委員会や神戸市教育委員会の指導主事、近畿地区の国立大学附属小学校と国私立大学教育学部の教員、全国の教育大学の教員の計295人から回答を得て、新任教員に求められる力を具体的に明らかにした。



【4年生後期】

【1～4年生】
（Step3～6は卒業まで何度も繰り返します）

Step4
学習や体験を記録する
授業や実習、制作作品のレポートなどを「**CanPassノート**」に記録して、さまざまな学びや気づきを蓄積していきます。

Step5
学びを振り返る
授業や実習の後は**CanPassノート**で過去の記録を振り返り、どのような発見や成長があったのかを確かめます。

Step6
弱点を克服する
教員養成スタンダードと照らし合わせながら自分の現状を客観的に見つめ直すことで、新たな課題（苦手な分野）が分かります。**総合教職キャリアセンター設置準備室**の講座を受けたり、自習したりすることで、さらなるレベルアップをめざします。

Step7
4年間の学びを最終確認
「**教職実践演習**」で4年間の学びを総点検します。

教員養成スタンダードによる学びをより効果的・発展的にする学内の取り組み

"4プラスアルファ"の教員養成に対応した体系的・機動的教育システムを開発

平成23（2011）年度から、兵庫教育大学では文部科学省の特別経費を得て「学部と修士課程・専門職学位課程との接合による新しい教員養成の在り方」についての研究を始めました。この研究は、中央教育審議会の「教員の資質能力向上特別部会」で検討されている教員養成の修士レベル化（4プラスアルファ）に対応したモデルカリキュラムの開発や学校現場等との互恵的な教育実習モデルの開発、現職教員が大学院で学ぶ場合の柔軟な修学方法（長期休業、夜間、ICTの活用等）などを主なテーマとします。

開学以来、30余年にわたって5,000人以上の現職教員の研究・研さんの場となってきた兵庫教育大学の知見を生かして、今後も高度な実践力を身に付けた教員の養成を、またそのための不断のカリキュラム改革を進めていきます。

名須川知子（教員養成カリキュラム改革推進室長）

「総合教職キャリアセンター」を設置し卒業後のキャリア形成も支援

兵庫教育大学では「総合教職キャリアセンター」の開設に向けて昨年度、設置準備室を立ち上げました。同センターの構想では、学生の入学から卒業・教員採用に至るまで、さらに教員になってからも主体的に学び、教員としての力量や資質、態度を形成し、豊かで幅広い人間性を育めるよう、キャリア形成支援に積極的・継続的に取り組む計画です。

そのために、①教員養成におけるキャリア教育についての調査および研究の推進（Research & Development）②講座等を通じた、さまざまな学びや体験、社会人基礎力養成の支援（Support）③学内の研究施設間の連携の推進や、正課と正課外の諸活動の有機的結合（Coordinate）の3本柱を設定しています。同センターの開設によって大学全体のキャリア形成支援の取り組みがより分かりやすく、利用しやすいものになると考えています。

新井 肇（総合教職キャリアセンター設置準備室長）

◎学校教育学部卒業生の皆さまへ

総合教職キャリアセンター設置準備室では、調査と研究の推進（Research & Development）の一環として、今年初め、学校教育学部の卒業生に「卒業後のキャリアと大学での学びに関するアンケート」を実施し、581通の回答をいただきました。ご協力いただきありがとうございました。アンケート結果は、教員養成大学におけるキャリア形成支援の研究に活用し、その一部を本学のホームページなどで報告する予定です。また、皆さまからの「後輩へのメッセージ」は抜粋してまとめ、在学生全員に配布しました。

【学生の

ハンドブック

教員養成スタンダードの手引として作成したもので、学生は自身の現状（段階）を把握し、次の学習目標を立てるために用います。教員もこのハンドブックを活用し、一人一人に合った指導に当たります。

CanPassノートのマニュアルも用意

教員養成スタンダードに基づく4年間の学習プログラム

【1年生前期】

Step1

高校時代までの歩みを振り返る

新入生オリエンテーションや合宿研修などで高校時代までを振り返ります。現在の自分を客観視することで、自分に足りないものや伸ばすべきものが明確になります。

Step2

教職について知る

「教職原論」などの授業で学校教員という職業について学ぶことで、卒業までに**教員養成スタンダード**で示されている資質能力を身に付けなくてはならないとの意識を高めます。

Step3

自らの学びを設計する

教員養成スタンダードを手掛かりに自らの課題を発見し、新たな目標を設定することで、次の学びに向けて計画を立てます。

べっ　そう　じゅん　じ
別惣淳二
教員養成スタンダード推進機構
研究開発委員会副委員長

教員養成スタンダードは学びの指針

兵教大の教員養成スタンダードは、学生が卒業するまでに教員として必要最小限の資質能力と、それらを教員になってからも向上させていくための「学び続ける力」の両方を身に付けることをめざしています。

教員養成スタンダードは、学生にとって教員になるための4年間の学びの指針のようなものであり、これを手掛かりに自身の学習成果を評価し、到達度を確認していきます。CanPassノートを活用して学年ごとに自らの成果と課題を明確にし、それを意識することで、次年度の学びがより高度で、つながりのあるものになると考えられます。

【必須アイテム】

CanPassノート

平成23（2011）年度の入学生から導入した電子ポートフォリオシステム。学生は学内のパソコンを使って日々の授業や実習で学んだこと、気付いたことを記録し、学習の振り返りに役立てます。また、クラス担当教員との面談の際には、事前に双方がCanPassノートの記録を確認しておくことで、より深い話し合いになります。